出家式

──近所付き合いの確認の場──

櫻　田　智　恵 *

ある日，タイの首都バンコクの繁華街で，私は 500 バーツを拾った．それは日本円にしてみたら 1,500 円程度の金額だが，ここでは屋台での 1 食が 30 バーツ（90 円）ほどであることを考えると，大金である．私の心は躍った．一緒にいる友人と 3 人でお茶を飲んでも，これで十分賄うことができる．おつりが出るほどだ．しかし，友人は困惑していた．

「500 バーツも落としたんじゃ，その人は困ってるだろうね…．」

「お寺にタンブン（功徳を積むこと）することにしよう．」

私は自身の思考を恥じた．私が私利私欲のために得ようとした金を，彼らは寺に寄進するという．敬虔な仏教徒とは，かくあるべきか．輪廻転生を基本思想とするタイにおいて，功徳を積むことは自身の来世への投資でもある．来世でよりよい生として生まれ変わるため，今世で功徳を積むのである．「功徳を積むのは自身のため」といわれれば確かにそうかもしれない．それでも私は彼らに尊敬の念を抱かずにはいられなかった．そして，その 2 人のうちのひとり，トンが 7 月に出家した．

出家．それは，国民の 90% 以上が仏教徒を占めるタイ王国において，社会的に重要な意味をもつ．伝統的には，男子は，出家によって初めて「成熟した人」となると考えられたという．出家未経験者は「未熟者」であり，婚姻資格者としても低い評価しか与えられない［石井・坪内 1970］．こうした傾向は，多少の地域差や個人差はあるものの，現在でも多くのタイ人が口にする．実際，タイでは非常に多くの男性が，一生に一度，出家を経験する．

ひとくちに出家といっても，出家する年齢や出家期間はさまざまである．満 20 歳未満で得度して修道生活に入った者を「サーマネーン」，もしくは「ネーン」と呼び，満 20 歳以上で出家した者を「プラ」，もしくは「ピック」と呼んで区別する．どちらを重視するかは地方によってある一定程度の差があるが［石井・坪内 1970］，基本的には出家経験そのものが重視される傾向にある．出家期間は個人によって異なり，2〜3 週間程度の短期出家もある．タイでは，一度出家してから還俗することに対して抵抗がない．伝統的には男子にとっての通過儀礼的な意味合いが強かったのである．息子を出家させること

* 京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科

が，両親にとって最大の積徳であるとも考えられている．

筆者は，2012 年 9 月から，タイのバンコクに滞在して現代政治史に関する調査を行なっている．仏教については専門外であるが，タイ人の友人と付き合っていると仏教に関心を抱かずにはいられない．タイの出家式については，これまで多くの研究がなされ，また日本人でも短期出家者が多いことから，web 上での情報も多くみられる．しかし，それらの多くは主に寺で行なわれる「出家式」に焦点が当てられており，前日の祝賀パーティやその準備の様子については，あまり知られていない．そこで本稿では，出家式につきものの祝賀パーティとその準備過程について，簡単に紹介することとしたい．

出家期間として最も一般的なのは，雨季にあたる 7 月からの 3ヵ月間である．暦上の雨季の始まりを「入安居（カオパンサー）」，同じく暦上の雨季明けを「出安居（オークパンサー）」と呼び，その日は国の祝日にもなっている．私の友人トンも，この時期に出家した．

トンの出家式に参加するため，私と友人 2 人は夜行バスでトンの地元であるペッチャブーン県へ向かった．首都バンコクから 6 時間ほどの距離である．バスターミナルには，トンの母親が車で迎えにきていた．家に到着すると，彼の出家式に合わせて遠方からやってきた親戚や知人が，家中所狭しと眠っていた．

朝 7 時を過ぎた頃，外がにわかに騒がしくなって目を覚ました．自宅前の道路に，特設ステージを組み立てる人々の声だった．階下に降りてみると，台所はすでに食事の準備をする人々で溢れかえっていた．この時ようやく私は，完全に「出家式」を甘くみていたことに気がついた．とにかくすごい人数なのである．親戚だけではなく，近所の人々が集まって忙しそうにしている．「出家式」は 2 日にわたって行なわれ，1 日目は家でパーティが，2 日目に寺院で本当の意味での出家式が執り行なわれる．そのため，家では僧侶を家に招く準備から，ご近所を招いて開催する祝賀パーティの準備までやらなければならず，関係者の人数も膨大だった．

しかし，家事において外国人（しかも都会暮らし）の私は完全に「役立たず」である．見たこともない食材が並び，調理法，ましてや下ごしらえの仕方など全く見当がつかず，最終的に小さなにんにくの皮をひたすら剥く係りになった．それ以外，私にできることがなかった（写真 1）．

ひととおり食事の準備を終えてようやく昼食を食べる頃，トンの母親が正装に着替えて出てきた．寺から僧侶がやってきて，人々が家の前に集まりだす．上半身裸で腰布を巻いたトンが現れると，場は厳かな雰囲気に包ま

写真 1　出家者本人から家事を教わる

れた．断髪式が始まるのである．断髪式はまず，僧侶が経を唱えながら髪を切ることで始まる．続いて，母親，親戚，知人の順に，全員がひとつかみ分，髪を切る（写真 2）．彼の髪を切ることが，皆にとって功徳を積むことへと繋がるのである．

全員が髪を切り終わると，僧侶が髪を剃り上げる．眉もすべてだ．トンが「僧侶」になっていく過程をまのあたりにして，友人は感動していた．しばらくすると，僧侶の助手をしていたトンの叔父が，おもむろに剃刀をもってきて，すでに髪の毛が残っていないトンの頭を剃り始めた．案の定，皮膚が切れて頭皮から大量に出血し，場は騒然となった．それでもトンの叔父は上機嫌だった．トンが出家することが嬉しくて仕方がないという風で，子どものようなはしゃぎ様である．出血が止まるのを待って，断髪式が終了した．

断髪式が終わると，トンは白い腰布に着替え，頭に頭巾を被り，透明な上着を着た．この格好は，仏陀に出家したいと言った竜（ナーク）の物語に由来する．俗人でも僧侶でもなく，白い衣を身に纏ったナークとして，出家前の一晩を過ごすのである．この衣装は，寺で清められた布を使い，トンの祖母が約 1ヵ月かけて手縫いした．

トンが簡単なパーリ語経典の暗唱試験を僧侶から受けた後，参列者全員が，僧侶が清めた紐をトンの腕に巻きつける儀式が行なわれた（写真 3）．この儀礼は，出家者を祝福する意味で行なわれ，自然に紐が切れるまで，それを断ち切ってはいけない習わしになっている．夕方 4 時，これで 1 日目の公的な行事が終了した．

朝から組み立てが続いていた特設ステージが完成したのは，夜 6 時頃だった．その頃には家の前に仮設のテントがいくつも張られ，綺麗なテーブルクロスが敷かれた丸テーブルが並べられていた．すでに幾人か近所の中年男性が集まって，ビールを開けて談笑している．皆，トンの出家式をきっかけにしたこのパーティを，ずいぶん前から楽しみにしていたという．豪華な手料理と酒が次から次

写真 2　断髪式

写真 3　祝福の紐

へと運ばれてきて，気がつけば会場は多くの人でにぎわっていた．

夜 8 時を過ぎた頃には，特設ステージでバンドの生演奏が始まった．朝，この特設ステージを見た時は，一体何に使うのだろうと不思議に思っていたが，まさか余興のためだけに作られたものだとは思いもしなかった．ステージには，次々にセミプロの地元の歌手が登壇した．出家式にともなうパーティなのだから，伝統的な音楽や厳かな雰囲気の曲が演奏されるのかと思いきや，始まったのは爆音のタイ演歌（ルークトゥン）である．歌手の女性たちはピチピチのミニスカートに 10 センチもあるヒールを履いて登壇する．見物客からのお捻りが飛び交い，また客も一緒に踊り出す．バックダンサーの女の子たちがあまりに若いので，いったい何歳なのかと思って尋ねてみると，彼らは小学校 5 年生から中学 2 年くらいまでの生徒だった．それでも，露出度の高い衣装を身に纏ってファンサービスをする姿はエンターテイナーとしての貫禄があり，十分に観客を沸かせた（写真 4）．

写真 4　豪華な食事と豪華なステージを堪能する

夜 7 時から始まった祝賀パーティは，夜中 1 時をまわっても終わる気配がなかった．パーティ会場の隣にある私たちの部屋の窓は，爆音で割れんばかりに振動し，隣に座る友人との会話さえままならないような状態だった．さぞ近所の人々にとっては迷惑だろうが，この日に備え，トンの母親は同地区すべての家をまわり，深夜までのパーティを開催する許可をもらってきたという．近所の人々も，そのパーティが出家式にともなうものだと知ると，一様に祝福の言葉をかけ，パーティの実施を快諾する．どこの家庭でもほぼ必ず出家式が行なわれるため，互いが持ちつ持たれつの関係であることを，皆が了承しているのである．

結局パーティは夜中 3 時まで続いた．我々は中座して休んだが，トンは主役だからと最後まで残ったようである．

「こんなに豪華にパーティをしてくれると思ってなかった．」

そう語って涙ぐむトンは翌日，多くの親戚や知人に見守られて，無事に僧侶として出家式を終えた（写真 5，6）．

出家式の準備に立ち会ってみると，この行事が近所付き合いの確認の場になっていることがよくわかる．トンの母親は，祝賀パーティの盛大さは，トン本人へのお祝いの気持ちと，近所の人々への感謝の気持ちを表現していると話す．トンが幼い頃から，近所の人々が子育てに協力してくれたし，トンがバンコクで働くようになってからも，トンを気にかけてくれている．それに対する感謝である，と．トン自身は，地元で出家することが

写真 5　母から息子へ，僧衣の献上

写真 6　健やかな僧院生活を…

母親や親戚，ひいては近所の人々の功徳に繋がると考えている．また，大学生の時から地元を離れたトンにとって，地元で出家することは，身体が地元を離れても，心は留まっていることを示す絶好の機会でもある．将来的に地元に戻ることを考えると，出家式を地元で行なうことの意味は大きいようだ．

一方で，近所の人々にとっては，出家式の準備に関ることは，お祝いの気持ちを示すことはもちろんのこと，そのコミュニティに所属していることを再確認する場でもあるという．準備に参加していた中年女性たちは言う．

「みんなで集まるのは楽しいし，トンに久しぶりに会えるのも，もちろん嬉しい．それにね，こういう準備に参加しないと，薄情者だと後ろ指を指されるんだ．この地域で生活していきたいなら，特に出家式と葬式の準備には積極的に参加しないとね．昔から，みんなそうやって支え合って生活してきたんだから．」

「情報交換の場でもあるよ．みんなの近況を知って，それぞれの悩みや困ってることも言い合うんだ．そうすると，自分が困っている時にまた誰かが助けてくれるんだよ．」

なるほど，男性の人生の中での通過儀礼である出家式．それは出家者にとっても関係者にとっても，自身が「地元」コミュニティに所属する意思があることを周囲に示し，同時に各々の繋がりを再確認する機会としても捉えられているようだ．地元を離れて都会で働く人が増え，また，パーティの形態が現代化するにつれ，出家式を「地元」で執り行なうことの意味は大きくなっているのかもしれない．

引　用　文　献

石井米雄・坪内良博．1970.「タイ国における出家行動の地域的変異についての一考察」『東南アジア研究』8(1): 2-15.